

2010年2月21日

法政大学文学部哲学科生・アルザス研修・報告（文責・菅沢 協力・安孫子）

<期間>2010年2月11日～17日（11日に全員が日本を出国・18日に全員帰国）

<拠点>アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）

<企画協力者> 法政大学文学部哲学科：安孫子信、菅沢龍文（教授）

CEEJA スタッフ：徳江純子（ストラスブール大学講師）、ロラン、メルテン、

クリストフ、ジュディ（ストラスブール大学大学院生、親称）他

ハイデルベルク大学：ヴォルフガング・ザイフェルト（日本学科教授）

日本学専攻の学生たち

ハイデルベルク薬事博物館：エリザベート・フーバー館長、中村典子（公式ガイド）

ハイデルベルク欧州分子生物学研究所：ハルドール・ステファンソン（主任研究員）

ストラスブール大学：サンドラ・シャール（日本学科・学科長）

日本学専攻の学生たち

講演会・講師：ヨーゼフ・クライナー（法政大学特任教授）

<参加学生> 法政大学文学部哲学科学生16名

4年：内藤・福田・押山／3年：大野・清水・塩澤・伊藤・戸谷

2年：石原・小峰・石川・和田／1年：糸永・渋谷・島岡・齋藤

<概要>

本年度のアルザス研修は昨年度に続く第2回にあたる。変更点としては、昨年度はドイツのフライブルク大学およびフライブルク市を訪問・見学したのだが、本年度はドイツのハイデルベルク大学およびハイデルベルクの旧市街を訪問・見学した。それから、今回はオーケーニスブール城を見学したことも新しい。この見学は、昨年度は天候にはばまれてスケジュール変更のためにできなかったことである。実際のスケジュールについては、下記のアルバムと一緒にしたスケジュールの通りである。

<研修の特徴>

（1）参加学生がヨーロッパの学生と交流すること。この点では、ハイデルベルク大学では日本語学科の学生たちに日本語で街を案内していただくなかで、学生たちが熱心に日本語を学んでいることをうかがい知ることができた。また、メンザで食事を共にして語りあえたのも短い時間ではあるが話し合う機会になった。ストラスブール大学でも、日本学専攻の修士課程の学生たちと大学の食堂で食事を共にしたのも語り合う機会になった。

（2）ヨーロッパの空気に触れて、参加学生が視野を広げること。この点では、今回もセレスタの人文主義図書館や、コルマルのウンターリンデン美術館や、ストラスブールのノートルダム大聖堂、ハイデルベルクの旧市街、コルマルの古い街並み、ストラスブールの旧市街などを見学することによって果たされたと思われる。

前回と違っているのは、ハイデルベルク城や、樹氷に囲まれた雪のオーケーニスブール城を訪問し、30年戦争以前の時代に思いを馳せたこと、ハイデルベルク薬事博物館で、ヨーロッパにおける薬学の深い伝統に触れたこと、さらに伝統文化との出会いだけではなく、ステファンソン先生にヨーロッパの先端研究についての話も伺ったこと、セレスタの人文主義図書館で貴重本ケンペルの『日本誌』の果

たした役割についてクライナー先生から教えを受け、考えたことである。

また前回に引き続き、ストラスブールのトラム（市電）に乗り、スイス行きの国際列車にも乗るなどして、一般市民の姿に触れることができたのもよい経験になったと言えるだろう。

<安全への対応>

- (1) 昨年度に続き、各自が海外旅行傷害保険に加入することを義務とした。
- (2) 教員は海外用携帯電話を持参。学生のなかにも持参する人がいたが、義務とはしなかった。

<全体の反省点>

(1) 今回は、前回と違って日本学科の学生たちとの共同の授業を行うことができなかったので、その点でヨーロッパの学生たちとの交流がさほど深まらなかった点が反省点である。この点については、ストラスブール大学日本学科のシャール先生との昼食を交えての話し合いで、来年は、互いに前もって準備し、ぜひ合同でのゼミを実現しようということで合意した。

(2) 最後のワークショップは CEEJA のスタッフの方やクライナー先生の協力も得てうまくいったが、ヨーロッパで日本学を学ぶさらに多くの学生も交えてこのような異文化を取り上げるワークショップを開催すれば、ヨーロッパで行う意義がいつそう大きくなると思われた。

(3) 最後の自由時間については、その場で決めることになり、結果として全員でキーンツハイムを訪問しワインの醸造所でお土産のワインを試飲・購入できた。その後に希望学生 13 名を連れてカイザースベルクを訪問することになった。徳江さんのご協力で半分の学生は自動車で、あとの学生は歩いて出かけた。カイザースベルクは避暑地のようにホテルもあり、土産物店も充実していた。学生たちはアルザスの伝統に触れ、最後の買い物をしたり村を見学したりして、それなりに充実した時間を過ごしたようである。前もって、キーンツハイムとカイザースベルク訪問はプランに入れておいて、事前勉強しておくといいのではないだろうか。(もちろん、天候によっては映画等で代替することになるのだろうが。)

(4) カイザースベルクにはシュヴァイツァーの生誕の家があり、記念館になっている。ここは、季節はずれで閉館しているのだが、扉の張り紙によると、団体での見学には電話で相談に応ずるとのことであった。この記念館を見学するのは、シュヴァイツァーが思想家でもあることを考えれば、事前勉強をしても哲学科生にとって意味があるのではないかと思われた。

(5) 携帯電話については先に触れたが、空港で借りられるものもあり 1 日につき 300 円ぐらいだから、万一の場合の保険のようなものと考えて、学生にも携帯を義務づけるといいのではないかと思われた。

以下、アルバムに続く

2月11日(木)

11h30 バスでCEEJA 着

2月12日(金)

6h30 朝食

7h30 ハイデルベルクへ向けてバスで出発

バスが渋滞に巻き込まれる

11h50 ハイデルベルク大学

日本学科学生の案内

東アジア研究センター・日本学研究学科・附属図書館訪問

12h40 日本学科学生たちと大学食堂で昼食

学生牢見学

14h30 ハイデルベルク城内 薬事博物館 中村典子氏のガイド

16h00 分子生物学研究所 Stefansson 先生の話进行

17h30 バスでアルザスへ出発

20h30 レストランで食事



ストラスブール空港



CEEJA に到着して



CEEJA の正面入口で



ハイデルベルク城を背に



ハイデルベルク旧市街



ハイデルベルク大学メンザで歓談



学生牢の中で



学生牢の入口前で



薬事博物館の案内に耳を傾ける



貴重本についての説明を受ける



ステファンソン先生の話に聞き入る

2月13日(土)

8h00 朝食

9h15 オーケーニスブル城へバスで向かう

10h00 オーケーニスブル城見学

12h00 リクヴィル村にて昼食

14h00 ストラスブルへバスで向かう

14h50 グーテンベルク像

ストラスブル・ノートルダム大聖堂の見学

旧市街見学

19h30 近隣のレストランで夕食



リクヴィルに到着、事前学習会



ノートルダム大聖堂を背景に



大聖堂のステンドグラス



リクヴィルのレストランで歓談



大聖堂を見上げる



ストラスブル旧市街で



オーケーニスブル城に到着



オーケーニスブル城の前で



グーテンベルク像の前で勉強会



ノートルダム大聖堂の塔の上で



レストランで1日を振り返る

2月14日(日)

8h00 朝食

10h00 コルマールにバスで向かう

ウンターリンデン美術館見学

12h30 コルマールのレストランで昼食

14h00 自由行動

18h30 コルマールのレストランで夕食



美術館ロビーで(事前勉強会も)



祭壇画と向き合う



ウンターリンデン美術館の正面で



レストランで美術館を振り返る

2月15日(月)

8h00 朝食

9h00 セレスタへバスで向かう

9h30 ユマニスト図書館見学

クライナー先生による、ケンペル著『日本誌』仏訳版の解説

11h30 ストラスブールへバスで向かう

12h00 ストラスブール大学食堂にて修士課程学生とともに昼食

14h00 ストラスブール大学内にて公開講演会(2時間)

法政大学特任教授・ボン大学名誉教授

Josef Kreiner 氏(民俗学)「いくつもの日本」

16h30 アルザス博物館見学その他、ストラスブール大学生とグループ行動

17h30 ストラスブール駅に向けてトラムで移動

18h23 チューリッヒ行き国際列車に乗車

18h58 コルマール駅着、コルマール駅前のレストランで夕食



ユマニスト図書館見学の事前勉強会



クライナー先生の解説に湧く



ユマニスト図書館内で



ストラスブール大学にて



クライナー先生講演会・質疑応答

2月16日(火)

8h00 朝食

9h00 CEEJA オリガス・ホールにてワークショップ(3時間)

テーマ:「九鬼周造とアンリ・ベルグソン」

4人からの提題の後、グループ討議、そして全体討議

12h00 その場で昼食(サンドイッチ)

14h00 キーンツハイム訪問・ワイン製造元を訪問・試飲・購入

15h30 カイザーベルク訪問(3名は宿舎に止まる)

19h00 カイザーベルクのレストランで夕食



全景



-----質疑応答-----



提題者たち



グループ・ワーク



オリガス・ホールで

2月17日(水)

03h00 集合

03h30 バスでストラスブール空港に向かう